

「人生会議 (ACP) とリビングウィルは同じもの？」

人生の最終段階における医療・ケアについて前もって考えよう、という、リビングウィルや事前指示書を想像する方もいるのではないのでしょうか。

ACPとリビングウィル・事前指示書は少し違います。リビングウィルや事前指示書は、自分で判断したり意思を伝えられなくなったときに備えて、自分の人生の終末期にはこうしてほしいという希望を書き留めておくものです。これらは、自分一人でも作成することができます。一方、ACPIは、医療・ケアチームから情報をもらいながら、医療・ケアチームと話し合っ決定・共有していく、そのプロセスのことです。ACPの愛称が「人生会議」なのは、それゆえですね。

つまり、ACPでは、医療・ケアチームが情報提供すること、話し合いに参加することが求められます。実はこれってとても重要なこと。例えるなら、自分の家を建てる時に似ているかもしれません。この道にとっても詳しい人なら、資金繰りや設計、建設業者の選択など、自分で失敗なく進められると思います。一方、詳しくない人がプロに相談せず自分で進めてしまうと、とんでもないことになるリスクがあります。プロの方達に自分の人生設計やこだわりを伝えながら、いろんな選択肢を提案してもらい、彼らと家族と何度も話し合う中で、現実的で納得できる家に近づいていく。相談する相手が顔なじみで、自分のこだわりやそれにまつわる思い出なども知ってくれていると、さらに安心感がありますね。

人生の最終段階における医療・ケアを考えると、私たち専門職がプロの立場になります。私たちが必要な情報を提供し、話し合いの場に参加して一緒に考えること、普段の関わりの中でその人の価値観やこだわりを知っておくこと、その一つ一つのプロセスが、現実的でご本人が納得のできる医療・ケアの選択に近づいていきます。

前号で紹介した「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」の解説編に、医療・ケアチームとはどのようなものかについて書かれています。場によって変わり得るものですが、在宅や施設であれば担当の医師や看護師だけでなくケアマネジャーや介護職やその他の関係者、医療機関であれば医療・介護職だけでなくソーシャルワーカーなどの参加も想定すると書かれています。この広報誌を読んで下さっている方はおそらく皆、ACPIに携わる医療・ケアチームの一員になりうる存在ではないのでしょうか。



編集後記

多職種ミーティングでファシリテーターにご協力くださった皆様、ちまたではインフルエンザの流行と、月末の忙しい時期で体調管理も難しいなか、本当に有難うございました。皆様のご協力で、今までファシリテーターを引き受けてくださっていた地域包括支援センターの皆さんが、一参加者として参加され「新鮮だった」と目をキラキラさせて話してくれた姿をみて、多職種で協力して開催できたことに運営の私たちも嬉しく思いました。多職種ミーティングでつながれた縁が、多職種ミーティングだけで終わることなく、地域の課題解決にむけ協力し合えるつながりになれることを願っています。

鎌倉市在宅医療・介護連携相談センター一同

鎌倉市在宅医療・介護連携相談センター

(専門職のための相談窓口です)

〒248-0013 鎌倉市材木座3-5-35 地域医療センター3F

TEL:0467-81-3597 (平日9:00-17:00) FAX:0467-81-3695



今号は令和6年度多職種ミーティングの報告号です。『意思決定支援を考える』を大きなテーマとし、事前研修会、多職種ミーティングを行い、その後、初の試みとしてまとめの研修会を行いました。事前研修会では「認知症の人の意思決定支援とACPを考える」をテーマに3名の講師にご講演いただきました。多職種ミーティングは「認知症の人の意思決定を支える地域づくり～多職種連携のできる～」をテーマに、事例検討を行いました。事前研修会の講師から、それぞれの立場で経験したことを参考にした事例を提供していただき、意思決定支援をサポートするプロセスをグループで話し合いました。

多職種ミーティング後に横浜市立大学医学部医学科総合診療医学准教授の日下部明彦医師をお招きして「その人の“生き方”に寄り添うACP～多職種がそれぞれの場面でできること～」というテーマで研修会を開催しました。

2024年10月16日第1回多職種研修会Web開催

テーマ：認知症の人の意思決定支援とACPを考える

大船中央病院呼吸器病棟師長の加藤素子さん、地域包括支援センター鎌倉きしろ管理者の村瀬磨美さん、鎌倉幸寿苑介護支援専門員の櫻庭美優貴さんにそれぞれの現場で経験した意思決定支援についてお話をいただきました。参加者138名と多くの皆様にご参加いただき、関心の高さがうかがえました。判断能力が低下している方の意思決定支援の難しさを皆さんが感じていると思います。よく耳にする認知症のエピソード、しまった場所を忘れてしまうことについて「大切なものだからと考えに考えぬいて大切に保管した。しかし、しまい込んだ出来事を忘れてしまい見つけることができず、さらに不安になる。」というお話しに認知症の特徴的な症状としか捉えていない自分に気付かされ、はっとしました。『正解はその人の中にある』という言葉の重みを感じ、新たな気付きと、なぜそのような行動をとったのかの『なぜ』を理解する姿勢の大切さを学びました。

この研修会を通して「認知症＝わからない」ではなく、大切にしている思いに気付けるよう、家族だけでなく、日々の観察や日頃から関わりのある方々、友人、近所の方々などから情報を集めることの大切さを学びました。講師の皆様ありがとうございました。



2024年11月25・29日多職種ミーティングWeb開催

テーマ：認知症の人の意思決定を支える地域づくり ～多職種連携のできる～

第1回多職種研修会の講師の方々に事例を提供していただき、グループワークを行いました。グループワークでは認知症の方の意思決定支援のために

- ① 「本人がどう感じ生活しているか」イメージしてみましょう
 - ② 本人が「いい（正解）」と思えることをサポートするにはどうしたらいいでしょう
 - ③ ①②を多職種で共有するためにはどうしたらいいでしょう
- という事を考えながら、2日間で163名の皆さんと語り合いました。
多職種ミーティングを終えた皆さんの感想を紹介します（原文のまま）。

意思決定支援…
本人の意向、困り
ごとを多職種で
確認していく大切
さを改めて感じ
ました。

話し合うプロセスが大切だ
ということを多職種で共有でき
た。それぞれの立場で事例を
話しあうことで意思決定支援
のプロセス手順を踏めたのだ
と思いました。

本人のもっている「正解」を尊重する
という考えを活かしていかなければ、
と感じました。

いろんな立場の方の意見を確認
できたこと、また自身についても、
考えさせられました。

地域・病院・施設それぞれの場で、「私が選ぶ」と言うある意味当たり前のことを尊重して支える関わりを知り、考えを深める機会になりました。

2024年12月16日第2回多職種研修会Web開催

テーマ：その人の“生き方”に寄り添うACP ～多職種がそれぞれの場面でできること～

日下部先生をお招きし、人生会議の要点と意思決定支援を行う上でのポイントについてご講演いただきました。日下部先生は横浜市の「もしも手帳」の監修にも携わられている先生です。人生会議とは、人生の最終段階において受たい治療やケアの詳細を決めておくことではなく、大まかなイメージを自分と親しい人の間で共有しておくこと。なぜそうしてほしいのか理由を尋ねましょう、理由にこそ価値観が現れますよ、というお話が印象的でした。また、意思決定支援・ACPは、①元気な時期から話し合いのきっかけを作る、②ACPのかけらを集める、③集めたACPのかけらを活用し、本人、家族、医療・ケアチーム等、みんなで意思決定していく、という3つのステージがあり、その中で介護福祉職が期待される役割や、本人や家族に「決めてください」と任せっきりにはしてはいけないなど、ポイントを大変わかりやすくご説明いただきました。オンラインでしたが124名の方が参加し、参加者からは「ACPは皆で作り上げるもの、という考え方を学ぶことが出来た」「ACPの実践の敷居が少し低くなった」などの感想が寄せられました。ACPへの理解が深まり、自分も取り組んでみよう、と前向きな気持ちになれた研修会でした。

これは横浜市版「もしも手帳」です。この手帳は、簡単な3つの質問に答えることで、もしものときにどのような医療やケアを望むのかを前もって話し合い、あなたの思いを伝えるための手帳です。

横浜市HPより抜粋
（「もしも手帳」の現物の配布は
横浜市民のみとなります）



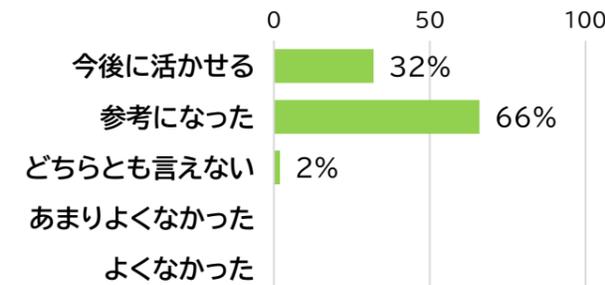
鎌倉市版が欲しいね～という声があがっています



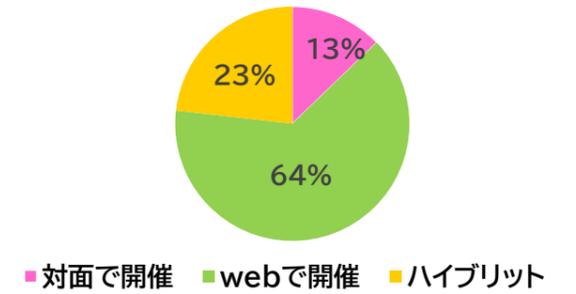
多職種ミーティングと第2回多職種研修会のアンケート結果をご紹介します (第1回多職種研修会はアンケート未実施でした)

【多職種ミーティングアンケート結果】

多職種ミーティングの内容はいかがでしたか？

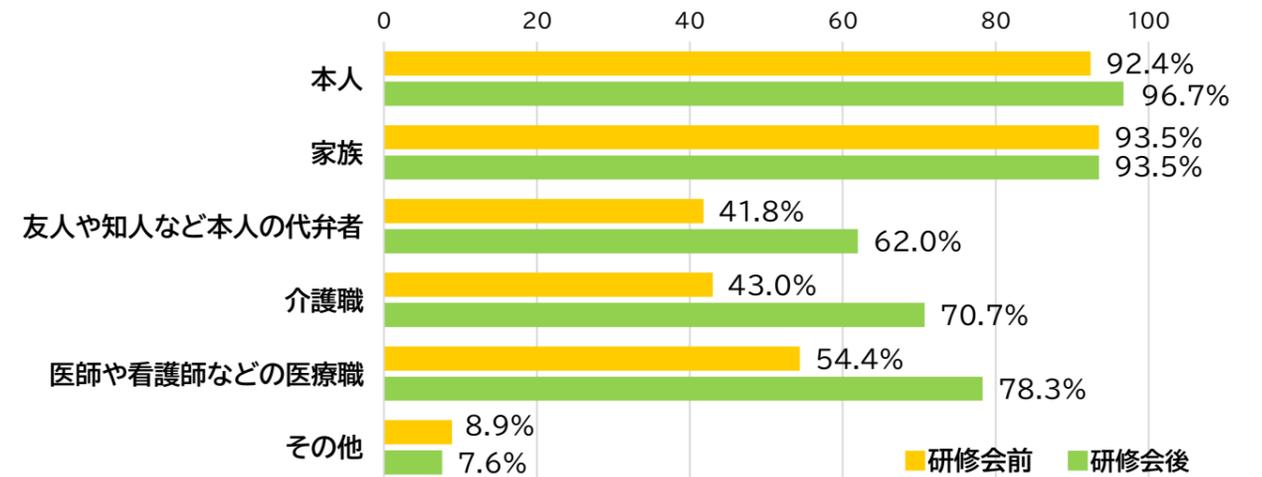


今後、どのような形式で開催するのが良いですか？



【第2回多職種研修会アンケート結果】

「ACP」は、誰が行うものだと思いますか（複数回答可）



支援の対象となる人のACPを多職種で共有するために、どのような方法があると思いますか？
最も有効と思われるものを一つ選んでください

「ACP」が何故必要か理解できましたか？

